

PROLOGUE

木二中 学校だより No.38 令和7年2月17日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



「夢は大きく 志は高く」「夢はでっかく 根は深く」「おのおの その志のまま生きよ」

チームや組織が安全な範囲(または居心地のいい場所、快適な空間)と言われるコンフォートゾーン、またはコンフォテブルゾーン(comfort zone/comfortable zone)を意図的に抜け出せるように設定された、達成可能な目標よりもちょっとだけ高めの目標のことをストレッチゴール(stretch goals)と呼びます。「挑戦的な目標」とも訳されますが、組織で言えば組織の命運を賭けた大胆な目標ということになります。これは何もチームや組織、ビジネスで言えば企業だけにあてはまることなく、個人に対しても用いられてもおかしくない「目標」であると思います。

今から44年前、中学3年、15歳を迎えた私は、よくもまあ大胆にもストレッチゴールを口にしていたことを思い出します。その目標、「高校に進学したら俺は甲子園に行く。」

ある先生には、「お前じゃ無理だよ」と鼻で笑われました。別のある先生には、「ま、頑張って」と心が込もってない言葉をかけられました。確かに身の程知らずだったのかもしれませんが。高校野球で甲子園に出場するには個人の力だけではどうにもならないからです。しかし結果は春夏連続出場。

「学校の先生になりたい」と口にした時もそうでした。野球しか知らない中学時代、成績はアヒルの大行進であるわけだから、担任の先生が「お前、いい加減にしろ」となるのも仕方がないでしょう。しかし今はこうして校長先生になりました。お前には無理だと鼻で笑った人たちを見返してやりたい、というお話ではありません。無理だと思わせてしまう生活ぶりだったのは私なわけで、当時の彼らには正当な判断だったのでしょうか。そうではなくて、私が当時口にした「甲子園に行く」、「学校の先生になる」という目標にフォーカスしてみてください。これは紛れもなく今で言うところの「ストレッチゴール」ではないでしょうか。

達成可能な目標よりも高い目標と言うのは簡単ですが、甲子園出場だなんて当時はかなり大それた目標でもあったし、学校の先生なんていうのは私にしてみれば夢のまた夢…。

結果としてその一つ一つを達成させてきた道程はどうだったのか。その一つ一つを達成させるために何を考え、どう行動してきたのか。そして挑戦的な目標を達成させた時に見えた景色はどんな景色だったのか。無限の可能性を大いに秘めた皆さんに、想像力をフル回転させてほしい。そう思っています。

人や組織は、快適な空間に居続けると現状に満足し、新たな一步を踏み出すことをしなくなります。無限の可能性を自ら放棄してしまうのです。本来私たち人間は、誰もが困難に打ち勝つ力や無限の可能性を持っていて、それらはある意味では時に厳しく、困難な環境の中でこそ引き出され発揮されるもの。望めば手に入るような甘やかされた環境だったり、何の不自由もない居心地のいい場所だったりでは、本来持っている力を発揮するどころか、可能性すら失われてしまうのです。

何の努力もなく達成させられる目標の下では、自らの成長が見込めるか？というとその答えは明白でしょう。だからこそ、個人の能力に見合ったストレッチゴールがそれぞれの成長を促すファクター(要因)になる。時に厳しい環境の中に身を投じ、自らを鍛え、困難を乗り越える経験こそが成長につながる。

当時の私が、「甲子園出場」という困難な目標を自ら課すことで成長を期したわけではまったくありませんが、結果としてその過程には、自らを成長させた数多くの失敗や挫折、様々な人たちとの出会い、いろいろな経験があった。人はそれを「無形の財産」と呼ぶのかなあと。

ちなみに、冒頭の「夢は大きく 志は高く」という言葉は、サッカー日本代表のDF、吉田麻也選手が座右の銘にしているお父さまからの言葉だそうです。「夢はでっかく 根は深く」という言葉は、「大きな夢を持ちたいのなら、根が深くなければならない」という意味の相田みつをさんの詩です。「おのおの その志のまま生きよ」という言葉は、日本の幕末の土佐藩士、坂本龍馬が残した名言です。

あと1ヶ月も経てば令和7年度を目前に控える時期となります。3年生は高校生として迎える新年度にどんな志を持つのか。1・2年生は、残された中学生生活をどんな志で過ごしていこうとするのか。それぞれがそれぞれにしか持つことのできない「ストレッチゴール」を掲げて新生活を迎えてほしいと思います。